



「ヤマトネイチャーサークル」は、株式会社ヤマトが行なっている様々な自然環境への取り組みの総称です。

さらなる自然との共生を目指し、地域社会や自然環境への貢献を目的として「ヤマトネイチャーサークル」は幅広い情報を発信していきます。

## 葉画家 群馬直美の ヤマトビオトープ園の葉っぱたち vol.67 絵と文 群馬直美

### 昔はご飯茶碗だった《カシワ》

葉っぱも木の実は野菜も人も、みんなこの世でただ一つの存在。

7月の終わりのビオトープ園で、

虫に食われてさらにオンリーワンになったカシワの葉っぱに出会った。

「わあ、ここにも、あっちにも！」

カシワの木の下で、小躍りしながら芸術的な姿になった葉っぱを物色する私。

大きい小さいの、虫食い葉っぱを両手にロビーへ行くと、

「うわあ〜、きれい！」

と受付ミカンちゃんも目を輝かせる。

虫食い葉っぱは人気者だ。

古代の人たちは、いろいろな木の葉をお皿代わりに使っていた。

当然、鍋・釜もなかったので、食べ物を煮炊きするのにも使った。

手近な葉っぱ、身近な葉っぱ、使えそうな葉っぱは何でも使った。

そのうち彼らは、この炊ぐ葉っぱ（ご飯を炊く葉っぱ）のことを

全部まとめてひとからげに「カシワ」と呼ぶようになった。

いろんな葉っぱを使っているうちに、

いつでもどこでも手に入れられ、使い勝手のよい葉っぱが自然と決まってきた。

今、私たちが「カシワ」と呼んでいる葉っぱがそれだった。

古代人の食の知恵、道具の名。これが「カシワ」の名の由来。

さて、このステキな虫食い葉っぱを押し葉にして持ち帰ろうと、

受付ミカンちゃんに「葉っぱを挿む紙が欲しい」と言うと、

いろいろ探して出てきたのが、

『管理栄養士が考えた日替わり弁当7月号』のA3二つ折りの紙。

1カ月分のお弁当のおかずがカラー写真で全面にプリントされた美味しそうな紙に挿まれて、

昔はご飯茶碗だったカシワの葉っぱくん、

食文化の進化に目を白黒させているようだった。

表紙の絵 「カシワの虫食い葉っぱ」

天地創造！雲の間から見える大地と海

- ・ヤマトビオトープ園にて2023.7.25採集
- ・紙（ファブリアーノエキストラホワイト 極細目）/テンペラ
- ・size:335mm×245mm
- ・2023.8.20完成 © Naomi Gumma

建設プロダクト  ヤマト

株式会社ヤマト 総務部広報室

2023年10月発行

〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

ヤマトホームページ [www.yamato-se.co.jp](http://www.yamato-se.co.jp)

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、「葉っぱ」をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのもの全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実は美術館』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>